履　歴　書

氏名（ふりがな）

生年月日

自宅住所 住所

TEL/FAX：

勤務先・現職 米国○○○大学 博士研究員（Dr. ○○研究室）

住所

TEL：　　FAX：

E-mail

学　　歴 ○○○○年○○月 ○○大学理学部　卒業

○○○○年○○月 ○○大学大学院○○研究科　入学

（○○学専攻）

○○○○年○○月 同　修了（修士（○○学））

○○○○年○○月 ○○大学大学院○○研究科　入学

（○○学専攻）

○○○○年○○月 同　修了（博士（○○学））

職　　歴 ○○○○年○○月 ○○研究所・非常勤研究員

○○○○年○○月 米国○○○大学 博士研究員（Dr. ○○研究室）

現在に至る

学　　位 博士(○○学)（○○○○年○月　○○大学）

免許および資格 ○○○○年５月10日 ○○免許（登録第○○○号）

学会活動等 日本○○学会（８年間）、

日本xx学会（６年間）

日本□□学会（４年間）

賞　　罰 ○○○○年○○月 第10回xx賞受賞

その他アピール

業績リスト

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文のcorresponding authorには＊を付すこと。印刷中、投稿中の論文も記載可。業績目録作成にあたって以下の業績等のサンプル記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。

Ⅰ．英文原著論文

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.\*

The cell-matrix interaction via CD44 ... PKC activation.

Journal, in press.

(URL)

2. Honjo J.\* & Kumamoto T.

Progression of tumor cells ... the H-Ras oncogenic signaling.

Journal, 108, 9-10 (2011)

(URL)

3. Kumamoto T.,\* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.

Signal transduction of ... in the cell differentiation.

Journal, 443, 456-789 (2006)

(URL)

Ⅱ. 英文総説

1. Honjo J., Kumamoto T.\* & Kurokami T.

Regulation of cellular proteins ... via ubiquitin-proteasome.

Journal, 345, 9-10 (2001)

2. Kumamoto T.\*

Stress response and transcriptional regulation … in neuronal cells.

Journal, 1, 23-45 (2000)

Ⅲ．邦文原著論文

　 1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.

生化学 85, 124-132, 2013

Ⅳ．邦文総説

（注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビュー

した、特に重要なもの等に限定して記載のこと。）

　 1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.

生化学 84, 985-993, 2012

Ⅴ．著書

1 Oe Y., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.

Alzheimer's disease and stress gene expression.

In Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience, Vol. 123, p. 456-789 (2019)

2. 熊本太郎

組み換えタンパク質

新医科学実験講座23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本) p. 456-789 (2012)

Ⅵ．招待講演（国際学会）

1. Kumamoto T.

Regulation of human cells ... via autophagy.

The 10th International Conference on Human ... (2018)

Ⅶ．特別講演・教育講演・指名講演など（国内学会）

（注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

1. 熊本太郎, 本荘次郎

フォスファターゼと... 活性化機構

第123回 生物学シンポジウム(2006)

Ⅷ.　シンポジウム・ワークショップ発表など（国内学会）

（注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

1. 熊本太郎, 本荘次郎

フォスファターゼと... 活性化機構

第123回 生物学シンポジウム(2006)

Ⅸ.　競争的研究資金の獲得状況

（注：過去に獲得した競争的研究資金について、研究代表者となった獲得資金をそれぞれ文部科学省科学研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に記載のこと。研究代表者分がない場合は研究分担者として参加した研究資金を記載のこと。）

文部科学省科学研究費

1. 20○○〜20○○年度　若手研究(B)

発生過程における○○とxxに関する研究

2. 20○○〜20○○年度　基盤研究(C)

タンパク質リン酸化と ... 活性化機構

その他の省庁研究補助金

1. 20○○〜20○○年度　厚生労働省科学研究費　がん克服戦略研究事業

細胞のイメージングと ... 分子標的治療

財団等補助金

1. 20○○〜20○○年度　特定研究助成金

細胞ストレスと...薬剤耐性化に関する研究

研究・教育に関する業績の概要

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名：熊本　太郎

現在までの業績をＡ４に１~２枚で記載ください。

研究・教育に対する抱負

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名：熊本　太郎

当該分野応募に関して、現在お持ちの抱負をＡ４に１〜２枚で記載ください。

応募者について問い合わせ可能な方２名以上の連絡先